

第1回 甲斐市水道事業審議会

甲斐市水道事業 経営戦略 及び アセットマネジメント計画

策定(改定)に向けて ― 第1回審議会 説明資料 ―

令和8年7月21日

公営企業部 上下水道業務課・上下水道総務係



検討の背景

全国の水道事業を取り巻く環境変化を踏まえ、総務省・国交省より、計画的・持続的な経営への最適化が求められています。

人口減少・水需要の減少

節水機器の普及や人口減少により給水収益の減少が見込まれ、中長期の収支を見据えた経営が必要です。

施設・管路の老朽化

高度経済成長期に整備した施設・管路が更新時期を迎え、優先順位を踏まえた計画的な投資が必要です。

災害への備え(耐震化)

地震・風水害の激甚化やテロ等に備え、災害に強い水道システムと危機管理体制の構築が急務です。

人材・技術の継承

技術職員の減少・技術継承への対応や、広域連携・官民連携の検討が必要です。

本日の内容

1 経営戦略及びアセットマネジメント計画とは

2 前回計画の概要

3 上位計画(第3次水道ビジョン)の概要

4 今年度計画のイメージと次回以降の方針

SECTION

1

経営戦略及び アセットマネジメント計画とは

1-1 経営戦略とは

水道事業を将来にわたり、安定的に経営するために策定するものです。
投資と財源の見通しを示し、持続可能な経営の実現を目指します。

■ **位置づけ**: 投資・財政計画を中核とした、経営の羅針盤となる計画

■ **計画期間**: 原則10年以上（投資・財源の試算は30～50年規模での見通し）

■ **収支均衡**: 投資需要と財源を均衡させ、持続可能な経営基盤を確保

■ **進行管理**: PDCAにより概ね3～5年ごとに検証し、必要に応じて見直し

1-2経営戦略の構成(3要素)

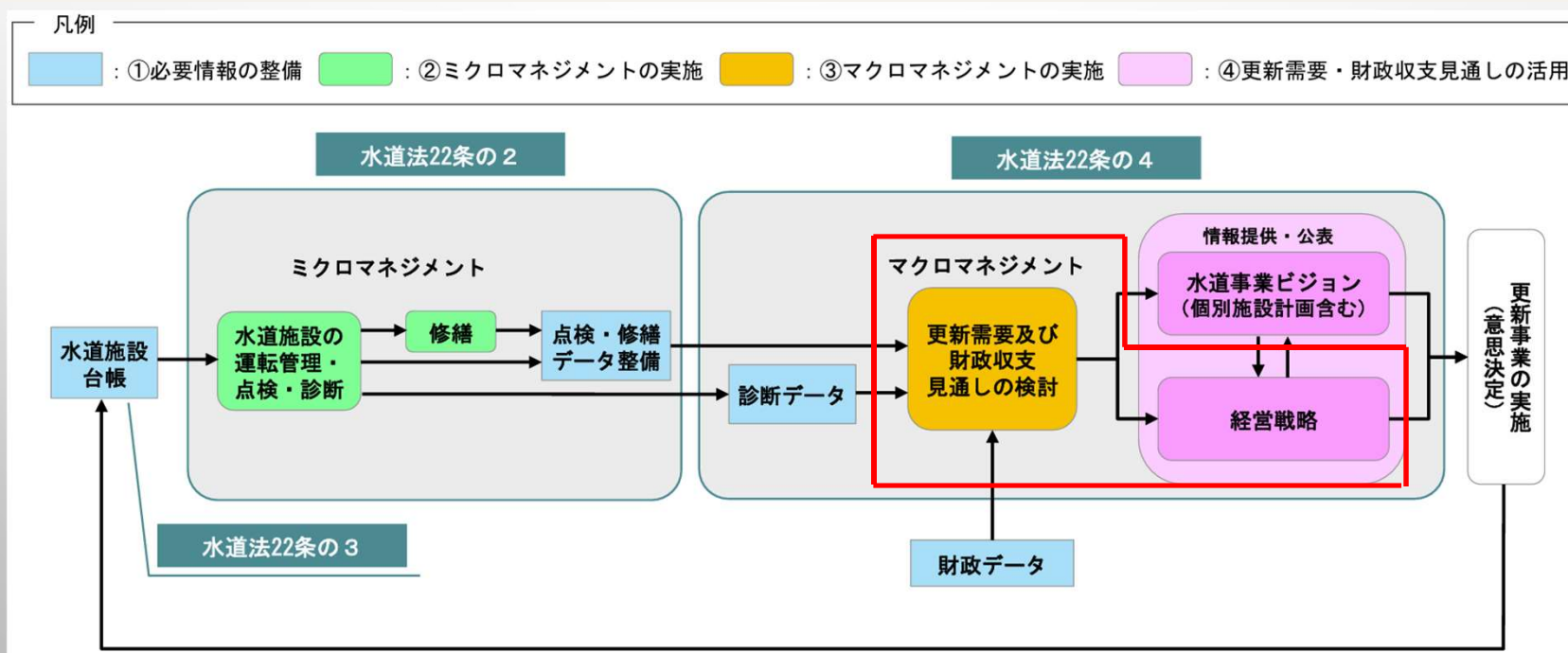
経営戦略は、主に次の3つの要素で構成されます。

STEP 1	STEP 2	STEP 3
事業の現状分析 経営・資産・組織の現状を把握し、課題を明らかにします。	将来見通し 需要・更新需要・収支を中長期的に予測します。	投資・収支計画と施策方針 投資・財政計画と施策方針を一体で示します。
※ 3つの要素をつなげて、持続可能な経営の実現を目指します。		

1-3 アセットマネジメントとは

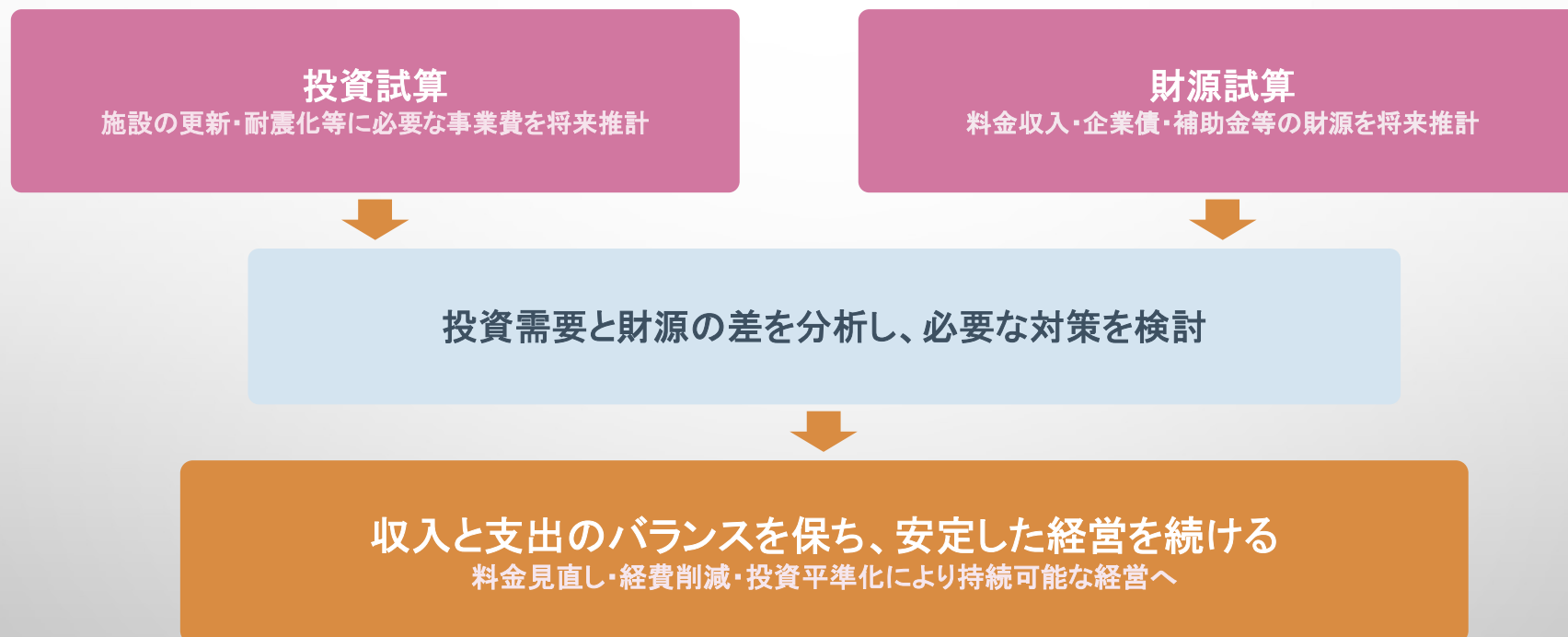
施設や設備を資産(アセット)として捉え、資産状態の健全化と財政の健全化の両立を目指した管理と運営(マネジメント)を計画的に実施するために策定します。

水道施設を健全に保ち、効率的かつ計画的に更新・維持管理していくための体系的な取組です。



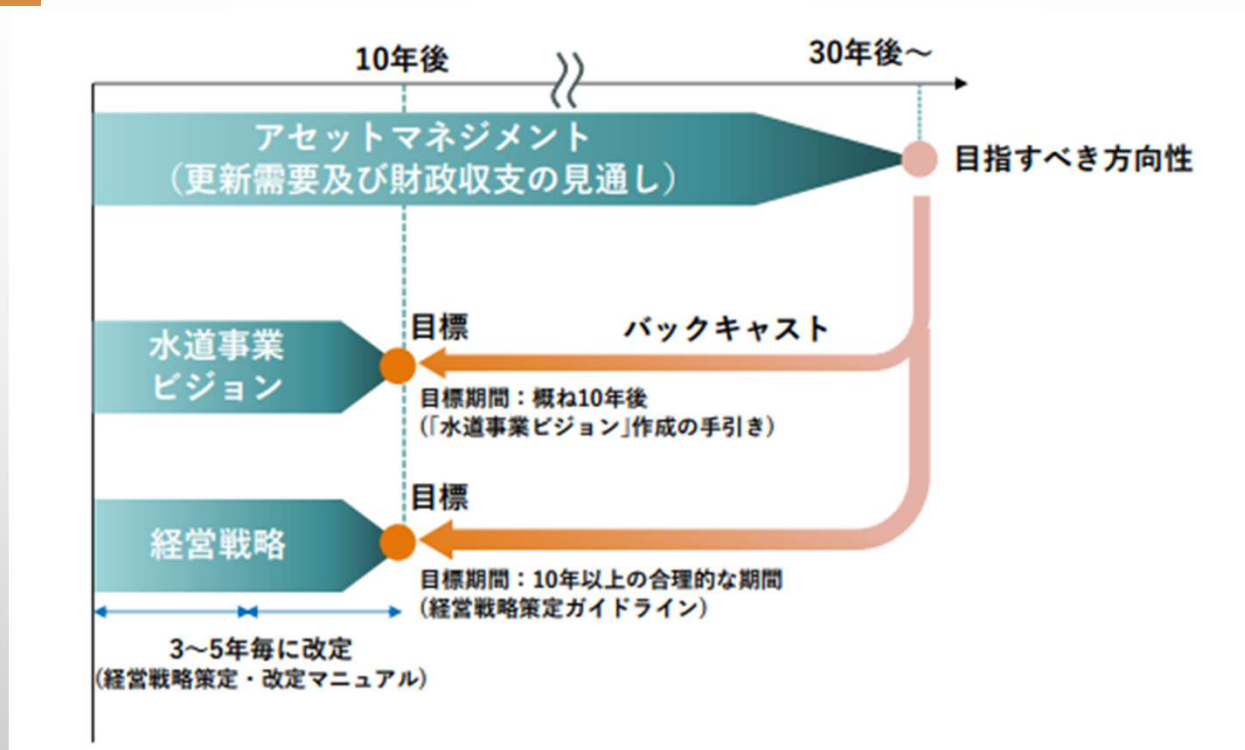
出典: 国交省「水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き」(令和8年4月)

1-4投資・財政計画の考え方



※ 投資・財源の試算は30～50年規模、計画期間は原則10年以上を想定

1-5両計画の関連



出典：国交省「水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き」(令和8年4月)

PDCA 概ね3～5年ごとに進捗を検証し、社会情勢の変化に応じて計画を見直します。

SECTION

2

前回計画の概要

2-1 前回計画の概要

平成28年度に甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画を策定し、令和3年度には中間見直しを行いました。

計画期間	平成29年度～令和8年度(令和3年度に中間見直しを実施)
基本理念	かけがえのない安全でおいしい水をいつまでも
施策の柱	「安全な水道」「安定性の高い水道」「持続可能な健全経営」を柱とした施策展開
位置づけ	ビジョンの諸施策の調和を図る財政投資計画 (経営戦略・アセットマネジメント計画)

甲斐市水道事業経営戦略
及びアセットマネジメント計画



平成 29 年 3 月

甲 斐 市

2-2経営の基本方針

経営方針は、第2次水道ビジョンの基本理念(将来像)を踏襲しました。

将来像

かけがえのない安全でおいしい水をいつまでも

目標

【安全】
安全な水道

【強靱】
安定性の高い水道

【持続】
持続可能な健全経営



2-3 中間見直しにおける施策の 取組状況(上水道事業)

安全・強靱・持続の3つの目標に対し、バランスよく取り組むことができました。また、各施策は概ね計画通りに進められましたが、主要管路等の更新(C1)及び応急復旧・応急給水体制の整備(F1)については、事業の進め方について改善が必要となりました。

	完	I	II	III
	事業目的を達成	計画どおりに事業を進める	事業の進め方の改善が必要	事業の見直しが必要
1 安全 安全な水道	C2 アセットマネジメントによる 老朽管更新計画の実施 C4 減圧弁の設置	A1 水質管理体制の継続 A2 残留塩素対策 B1 外部委託の継続 C3 配水区域の見直し D1 水道システムの強化	C1 主要管路等の更新	-
2 強靱 安定性の高い水道	E3 緊急遮断弁の設置	E2 基幹管路の耐震化 F2 人的災害の予防 G1 配水ブロック間の相互融通機能の強化 G2 隣接都市との相互連絡体制の強化 H1 受付業務サービスの充実 I1 積極的な情報共有と広報活動 J1 水道メーターまでの維持管理の継続 K1 管路情報システムの充実	F1 応急復旧・ 応急給水体制の整備	-
3 持続 持続可能な 健全経営	-	L1 定期的な水道料金の見直し検討 M1 健全な財務体質の確保 M2 有収率の向上 M3 料金収納率の向上 N1 コスト削減の継続 O1 若手職員の技術の継承と OJT の実施 O2 専門職の育成 P1 施設の省エネルギー化 Q1 省エネ型車両導入の検討 Q2 資源リサイクルの推進	-	-

出典:「甲斐市第2次水道ビジョン及び甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画
中間見直し」(令和4年3月)

2-4 中間見直しにおける施策の 取組状況(簡易水道事業)

外部委託検討(B1)、管路更新(C1、M2)、水道システム強化(D1)、耐震化(E1)、応急給水体制の整備(F1)、財務体質の健全化(L1、M1)については、事業の進め方の改善が必要となりました。

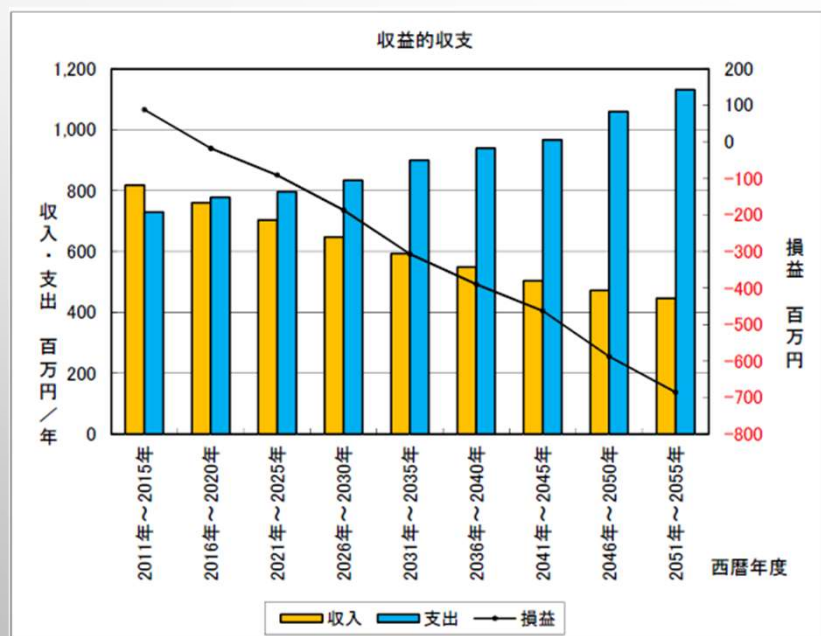
また、市の一般会計からの繰入金のあり方等、健全な財務体質の確保について検討を進めながら、安全性や強靱性について優先度を設定し、施策に取り組む必要があることが課題として整理されました。

	完了	I	II	III
	事業目的を達成	計画どおりに事業を進める	事業の進め方の改善が必要	事業の見直しが必要
1 安全 安全な水道	C2 アセットマネジメントによる 老朽管更新計画 の実施	A1 水質管理体制の継続 A2 残留塩素対策	B1 外部委託 の検討 C1 主要管路 等の更新 D1 水道シス テムの強化	-
2 強靱 安定性の 高い水道		F2 人的災害の予防 I1 積極的な情報共有と広報活動 J1 水道メーターまでの維持管理の継続	E1 主要施設 の耐震化 F1 応急復旧・ 応急給水体制 の整備	-
3 持続 持続可能な 健全経営	-	M3 料金収納率の向上 N1 コスト削減の継続 O1 若手職員の技術の継承と OJT の実施 O2 専門職の育成 P1 施設の省エネルギー化 Q1 省エネ型車両導入の検討 Q2 資源リサイクルの推進	L1 定期的な 水道料金の見 直し検討 M1 健全な財 務体質の確保 M2 有収率の 向上	-

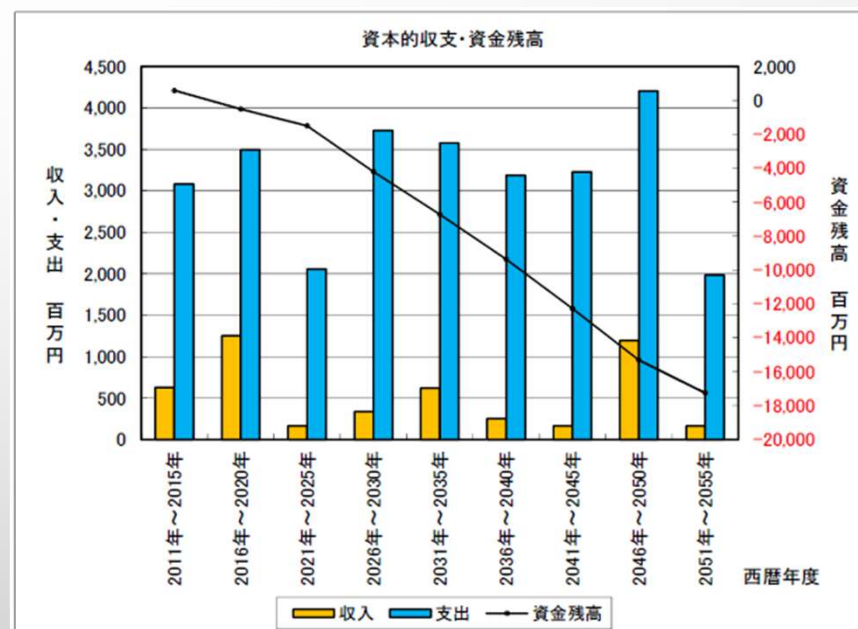
出典:「甲斐市第2次水道ビジョン及び甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画中間見直し」(令和4年3月)

2-5投資・財政計画(上水道事業)

財政収支の見通しとして、ケースA(料金据置)とケースB(料金改定)について検討しました。
 ケースA(料金据置)では、資金ショートを起こしてしまう他、損益についても赤字に転じる見込みとなりました。



収益的収支の状況(ケースA)

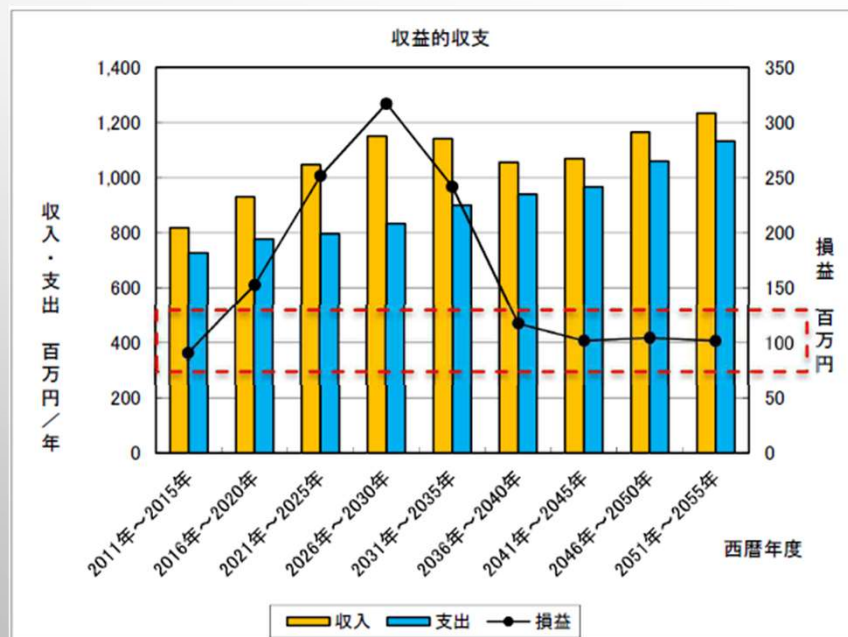


資本的収支の状況(ケースA)

出典: 甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画(平成29年3月)

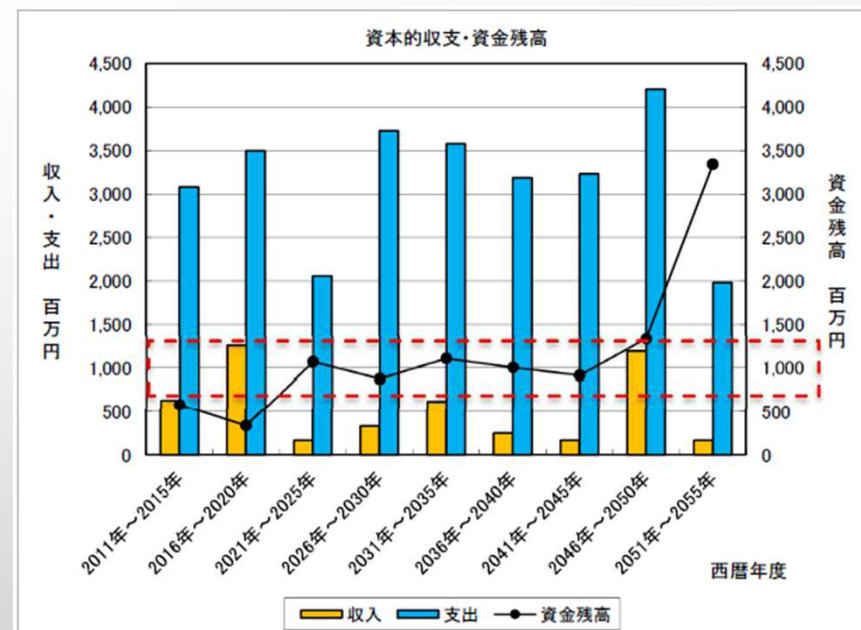
2-6投資・財政計画(上水道事業)

ケースB(料金据置)では、「資金残高の回復」と「更新需要への対応」のため、比較的高い料金改定をしなければならない結果となりました。そのため、投資の合理化を検討し、料金水準の適正化を図る必要がありました。



収益的収支の状況(ケースB)

出典: 甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画(平成29年3月)



資本的収支の状況(ケースB)

2-7 更新需要の見直し(上水道事業)

水道施設の更新基準を見直すことで、適切な維持管理による水道施設の長寿命化による更新需要を見直した上で、財源確保を図る案(ケースC)について検討しました。

投資・財政計画の結果に基づき料金水準を検討

理想案では平成31年度(令和元年)に約55%の料金改定が必要との試算結果でした。

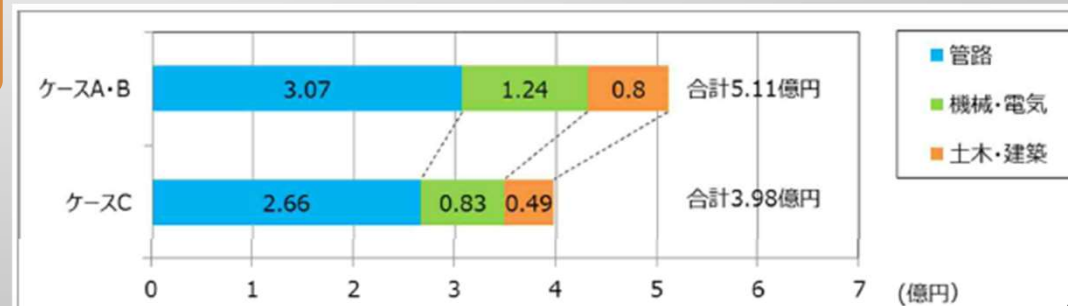


段階的改定で収支均衡を確保

市民負担に配慮した段階的改定(令和元年度 平均27%・令和7年度 約25%)を採用し、資金ショートを回避して更新財源を確保しました。

名称	更新基準		
	法定耐用年数	ケースA・B 財源確保	ケースC 財源確保 (更新需要見直し)
建築	50年	50年	75年
土木	60年	60年	90年
電気	15年	15年	22.5年
機械	15年	15年	22.5年

名称	更新基準		
	法定耐用年数	ケースA・B 財源確保	ケースC 財源確保 (更新需要見直し)
ダクタイル鋳鉄管 (NS形継手)	40年	60年	80年
ダクタイル鋳鉄管 (その他の継手)	40年	50年	70年
耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (RR継手)	40年	40年	50年
その他	40年	40年	40年



出典: 甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画(平成29年3月)

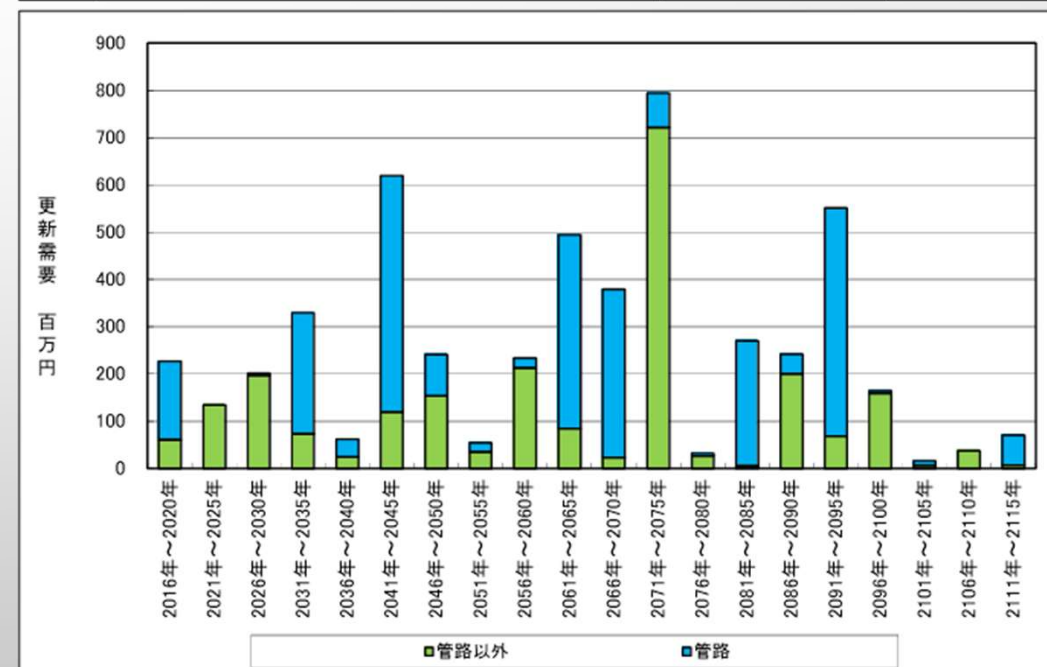
2-8 更新需要の見直し(簡易水道事業)

上水道事業の検討結果を踏まえて、簡易水道事業の施設更新基準を定め、長期間の更新需要を算出しました。

集中的な管路の更新に加え、
短いスパンでの機電設備の更新が必要となる

更新需要の集中を避けつつ、
計画的に施設更新を行う方針とする

名称		法定耐用年数	更新基準
土木		60 年	90 年
建築		50 年	75 年
機械		15 年	22.5 年
電気		15 年	22.5 年
管路	ダクティル鉄管 (NS 形)	40 年	80 年
	ダクティル鉄管 (その他)		70 年
	耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (RR 継手)		50 年
	その他		40 年



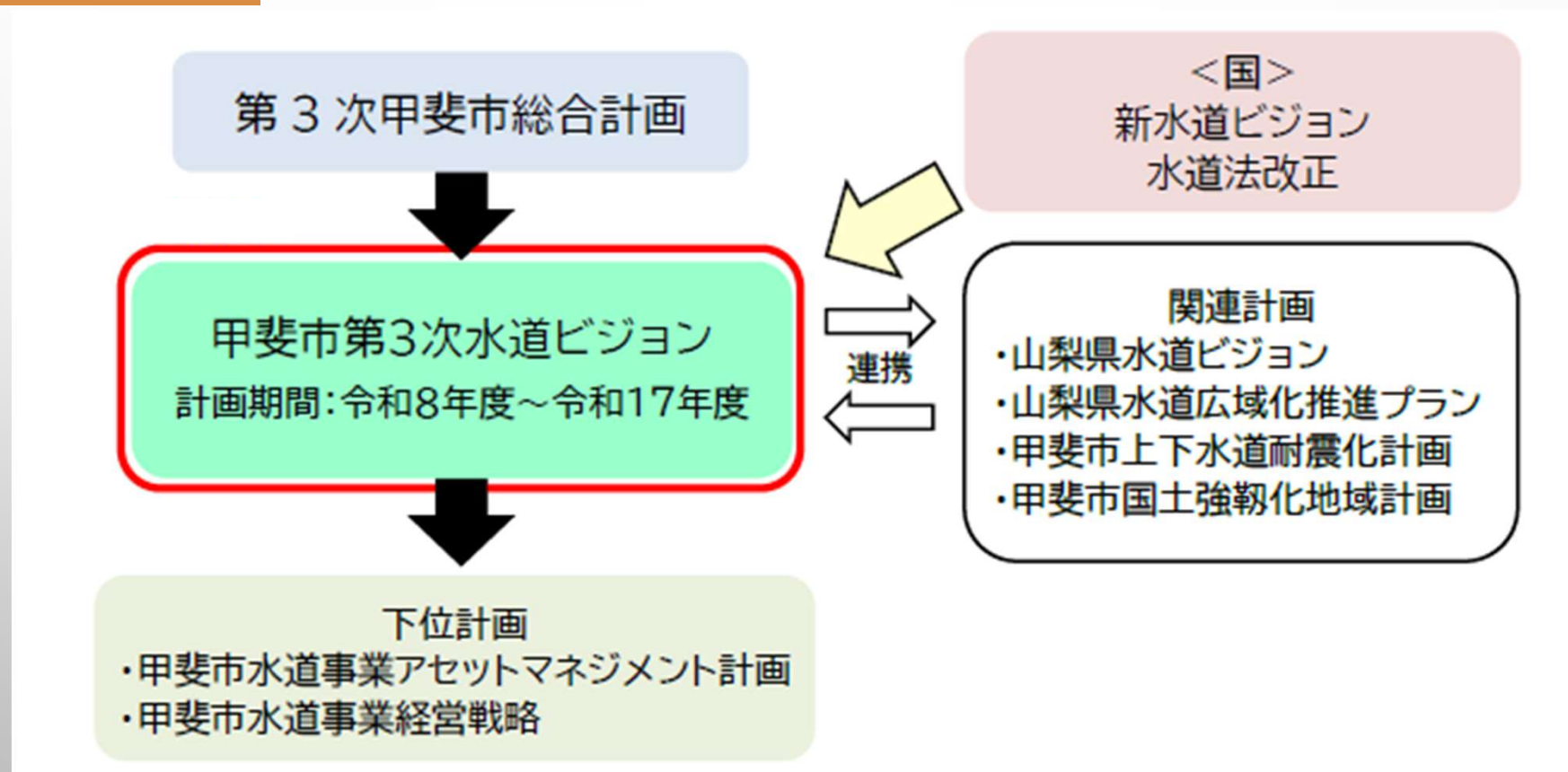
出典: 甲斐市水道事業経営戦略及びアセットマネジメント計画(平成29年3月)

SECTION

3

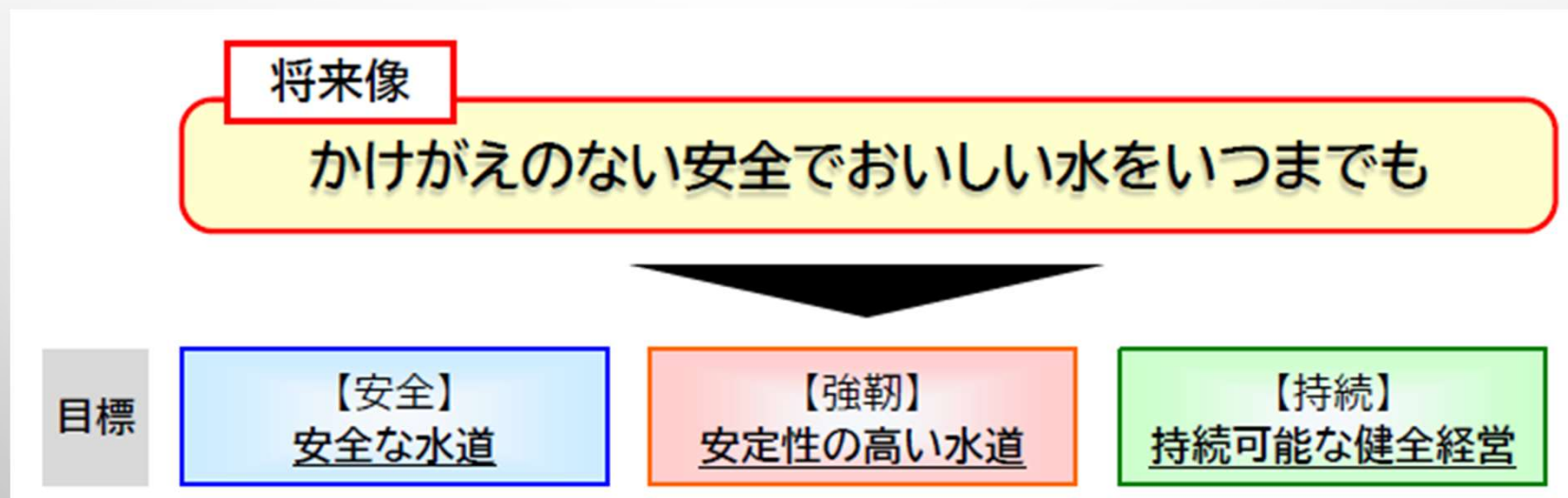
上位計画(第3次水道ビジョン) の概要

3-1 位置づけ



3-2 将来像と目標

将来像・目標は第2次水道ビジョンを継承しました。



3-3施策体系

第3次水道ビジョンでは、3つの目標(安全・強靱・持続)に対して、11の実現方策、23の主要施策を定めました。

実現方策や主要施策は、一部第2次水道ビジョンを踏襲しつつ、水道事業の課題を考慮した内容に見直し(項目の追加、集約、位置づけ変更等)を行っています。

目標	実現方策	主要施策	該当事業		備考
			上水	簡水	
水道 【安全】	① 水質管理体制の継続	1 水質管理体制の継続	○	○	
		2 残留塩素の適正管理	○	○	
安定性の高い水道 【強靱】	② 効率的な水道施設の再構築	3 水道施設の計画的な更新	○	○	
		4 配水区域の見直し	○		
	③ 災害対策の強化	5 主要施設の耐震化		○	
		6 緊急遮断弁の整備	○		
		7 施設の浸水対策	○		
	④ 危機管理体制の強化	8 応急復旧・応急給水体制の整備	○	○	
		9 応急給水施設・資機材の充実	○	○	新規追加
		10 緊急用発電機の維持管理及び新規設置の検討	○	○	新規追加
	⑤ 適正な資産管理	11 アセットマネジメント計画のレベルアップ	○	○	
		12 管路情報システムの充実	○	○	
持続可能な健全経営 【持続】	⑥ 利用者サービスの向上	13 受付業務サービスの充実	○	○	
	⑦ 情報公開・広報活動の推進	14 積極的な情報提供と広報活動	○	○	
	⑧ 財政基盤の強化	15 必要に応じた水道料金の見直し検討	○	○	
		16 有収率の向上	○	○	
		17 簡易水道事業の統合に関する検討	○	○	新規追加
		18 経営戦略の見直し	○	○	新規追加
		19 外部委託の継続検討	○	○	
	⑨ 事業の効率化	20 工事に係るコスト縮減方策の継続実施	○	○	
		21 広域化に向けた検討の継続	○		
	⑩ 人材育成と技術の継承	22 人材育成・技術継承	○	○	
	⑪ 環境に配慮した事業の推進	23 省エネルギー対策の推進	○	○	

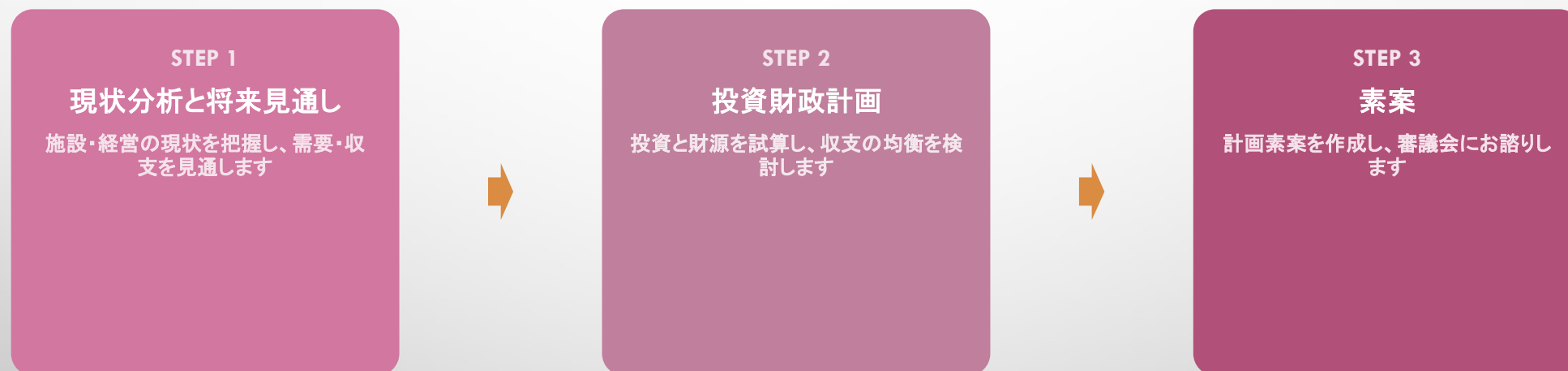
SECTION

4

今年度計画のイメージと 次回以降の方針

4-1 今年度の検討イメージ

今年度は、次の流れで計画の検討を進めます。各段階で審議会のご意見を反映します。



各ステップの節目で審議会にお諮りし、いただいたご意見を計画に反映していきます。

4-2審議会の進め方と検討テーマ

各回の審議会では、次のテーマを中心にご審議いただきます。

第1回(今回)	計画の目的・全体像の共有、進め方の確認
第2回(9月28日開催予定)	現状分析・将来見通しの確認、課題の整理
第3回(10月末)	投資・財政計画・計画素案の検討
第4回(1月)	計画素案の答申

パブリックコメント	計画素案の公表と市民意見の募集
答申・計画決定	意見反映を経た計画案の答申・決定・公表

4-3まとめとご審議いただきたい事項

■ 本日のまとめ

- 経営戦略とアセットマネジメント計画は、持続可能な水道経営の基盤となる計画です。
- 上位計画(水道ビジョン)を踏まえ、本市の実情に即して策定・改定を進めます。
- 今年度は現状分析から計画素案までを検討し、審議会のご意見を反映します。

ご審議いただきたい事項

- 計画策定の進め方・スケジュールについて
- 計画で重視すべき視点・論点について
- 市民への情報提供・参画のあり方について

用語の整理(参考)

本日の説明で用いた主な用語を整理します。

経営戦略	持続的な経営を実現するための中長期的な経営の基本計画。
アセットマネジメント	施設を資産として適切に管理し、更新需要を見通す手法。
ミクロマネジメント	水道施設の運転管理や点検調査などの日常的な資産管理。
マクロマネジメント	水道施設全体の資産管理のことで、各施設の優先順位を考慮した上で、長期的な観点から「更新需要見通し」及び「財政収支見通し」について検討する。
投資・財政計画	今後の投資と財源を見込んだ、中長期の収支計画。
バックキャスト	目指す将来像を実現するために、必要な取組を考える手法。
水道ビジョン	本市の水道が目指すべき姿と方向性を示す上位計画。
パブリックコメント	計画素案に対し、広く市民から意見を募集する手続き。